



出穂10日前の追肥、赤かび防除で収量品質向上！！

1. 出穂予想(3月2日時点)

10月上旬播種 ⇒4月8日前後
 10月中旬播種 ⇒4月9日前後
 10月下旬以降播種⇒4月14日前後

昨年と同程度の見込みです。
 ※R1年産
 出穂期4/5～18

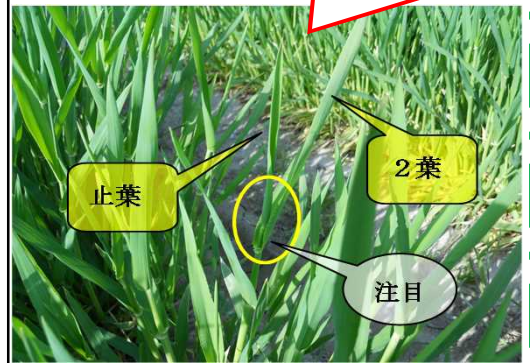
2. 今後の管理

(1) 止葉展開期追肥

一発肥料溶出の早まりから、登熟期間の窒素供給不足が懸念され、細麦粒発生防止のため、出穂10～15日前に止葉展開期追肥を実施する。

播種時期	施用時期	施肥量
10/10以前	3/25～29頃	NK17号 12kg (N:2kg)
10/11～25	3/29～4/2頃	
10月末以降	4/1～4頃	

出穂10日前とは、
圃場全体30～40%が
止葉展開した頃です。



※止葉展開期を確認し、遅れないように実施してください。

施用の遅れは、硝子率多発(品質低下)や効果低減につながります。

(2) 湿害対策(排水口の点検)

- ・出穂期以降は特に湿害の影響を受けやすい。
- ・今後は周囲の水田や用水からの漏水が生じやすくなる。

⇒排水溝のつなぎ等を再度点検！

湿害回避と追肥の効果を高めるため、圃場内の排水に努める。

水溜まりを
ただちに排水！！



(3) 赤かび病防除 等

出穂後3～5日の穂揃期、その1週間後の2回防除を徹底して下さい。

防除時期 (4/8出穂の場合)	薬剤名	10aあたり 使用量	使用回数
第1回 4月11～13日 穂揃い期 出穂3～5日後	トップジンM 粉剤DL	4kg	出穂期以降は 1回以内
	トップジンMゾル	薬剤67ml /水100 ^{リットル} 1,500倍希釈	
 第2回 4月18～20日 1回目の7日後	ワークアップ 粉剤DL	3kg	2回以内
	チルト乳剤25	薬剤67ml /水100 ^{リットル} 1,500倍希釈	1回

※生育旺盛な圃場では、うどんこ病の多発が懸念される。
 ⇒発生が見られた場合は、出穂前に薬剤散布を実施する。
 (トリフミン水和剤 100g/水100L)

(4) 大麦ほ場内の周縁部の除草について

薬剤名	使用場所	対象雑草	使用時期	10a当たり使用量		使用回数
				薬量	希釈水量	
バスタ液剤	圃場内の周縁部	1年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	300～ 500ml	100～ 150 ^{リットル}	3回 以内
プリグロックスL	圃場内の周縁部	1年生雑草	雑草生育期	600～ 1000ml	100～ 150 ^{リットル}	4回 以内
ラウンドアップマックスロード	圃場内の周縁部	1年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期)	200～ 500ml	50～ 100 ^{リットル}	3回 以内

<1ヶ月予報(2月29日～3月28日) 新潟地方気象台2/27発表 >

寒気が南下しにくく、暖かい空気に覆われやすい。

○気温: 高い確率80%

○降水量: ほぼ平年並み

○日照時間: ほぼ平年並み

○降雪量: 少ない確率70%